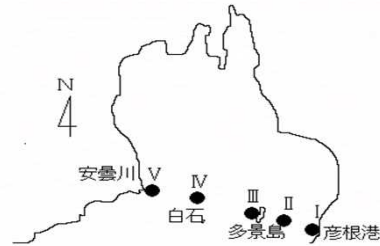


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年10月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和4年10月11日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

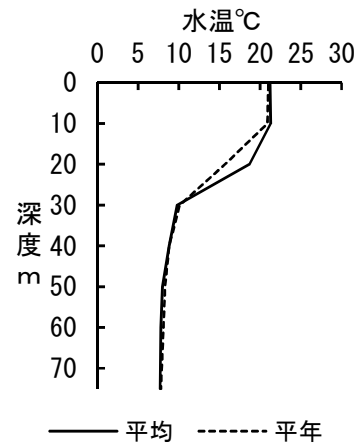
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 10月平均値 6.7m 平年値 5.7m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	21.2	21.0	+0.2
10	21.3	20.9	+0.4
20	18.7	15.7	+3.0
30	9.8	10.1	-0.3
40	8.8	8.8	+0.0
50	8.0	8.3	-0.3
60	7.8	8.1	-0.3
75	7.7	7.8	-0.1



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
9月下旬	23.4	23.5	-0.1
10月上旬	22.6	21.8	+0.8
10月中旬	20.7	20.4	+0.3

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	10.3	15.0	-4.7
10~20	4.4	4.0	+0.4
20~40	1.1	1.0	+0.1
40~75	0.3	0.4	-0.1

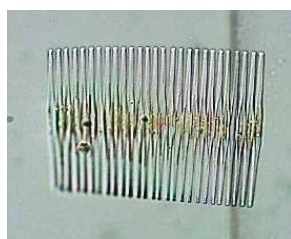
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

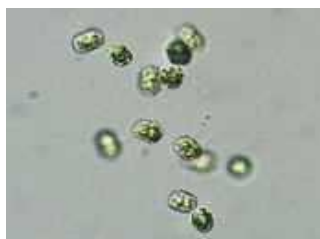
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは全体的に少ないが、全ての地点で*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)と*Cosmocradium constrictum*(コスモクラヂウム:緑藻)が細胞数で比較的多く認められた。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)とCYCLOPIDAE(ケンミジンコ科:カイアシ類)を同程度含むと思われるノープリウス期およびコペポデイド期幼生が個体数密度で多く確認された。



Fragilaria crotonensis



Cosmocradium constrictum



ノープリウス期幼生



コペポデイド期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	10月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.6	99.3	8.9	102.9	-0.3	(-3.6)
10	8.5	98.5	8.7	101.0	-0.2	(-2.5)
20	7.9	85.0	7.0	72.1	0.9	(+12.9)
30	8.4	76.3	7.9	72.4	0.5	(+3.9)
75	5.9	51.5	4.0	34.9	1.9	(+16.6)